難波っ子

令和２年度２月号
尼崎市立難波小学校
校長　難波　佳代子

２月２日　節分

例年以上に寒い１月が終わり、季節は進み、冬と春を分ける節分がやってきます。節分は｢2 月 3 日｣と覚えている人も多いかもしれませんが､必ずしも２月３日とは限りません。節分は、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と 4 つある季節の変わり目のうち、「立春」の前日にあたる日です。そして立春は、地球と太陽の位置関係によって決められ、だいたい毎年２月４日頃に訪れるため、節分はその前日である２月３日頃になるのです。2021 年の立春は２月３日なので、節分は、２月２日となります。（１２４年ぶりだそうです。）立春は暦の上で春が始まる季節のこと。つまり、節分は冬の終わりの日で、翌日から新しい季節が始まる区切りの日となるわけです。そのため、邪気や悪いものを落として、新しい年に幸運を呼び込むことを目的に、節分という行事が日本各地で行われてきたのです。

節分では豆をまいて厄を払いますが、この豆まきが行われるようになったのは、室町時代頃と言われています。当事は豆ではなくお米をまいたとされており、病気などの厄災を追い払っていたようであり、その習慣が現代でも続いています。節分の豆は、基本的には旧年の象徴として穢れや厄災を負って祓い捨てられるものでした。魔除けでの穢れを負った豆であるから、まいた豆から芽が出ることを恐れる伝承は多く、芽が出ないように炒った豆をまくのです。その豆を自分の歳の数だけ食べると、体が丈夫になって病気になりにくいと言われています。私も自分の歳より一つ多い数え歳の豆を毎年食べています。その他にも、恵方巻きを黙って食べる・鰯の頭と柊を玄関に飾るなど各家庭での節分の風習があることでしょう。どの風習もそしていつの時代も願いは同じです。**「みんなが健康で幸せに過ごせますように」**

緊急事態宣言が発令されている中での節分。新型コロナウイルス感染症の厄災を追い払って、新しい春に幸運を呼びたいです。なかなか感染が収まらず制限が多く不安な日々が続きますが、家庭で過ごす時間が長い今だからこそ、昔から続く季節ごとの行事の由来を知り、家族で行事を楽しんでみるのもいいのではないでしょうか。四季のある情緒を大切にする日本です。五感を働かせ、自然の素晴らしさを感じ、人と人のつながりを感じ、心豊かに過ごしたいものです。学校生活でもいろいろな制限がある中ではありますが、子どもたちはその中でできることに精一杯取り組んでいます。これも、各ご家庭での健康管理や励ましなどご支援ご協力をいただいているからできることです。本当にありがとうございます。２月・３月と学年のまとめと進級・進学に向けての準備に全教職員で心を一つにして取り組んでいきます。引き続き、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

節分は季節を分ける日、みんなが健康で幸せに過ごせるように願って、悪いものを追い出す日　　「　鬼は外！　福は内！　」